

第2章 医療・福祉・保健分野

政策体系

1 地域医療の充実

- (1) 医療体制の整備
- (2) 市立病院の充実
- (3) 医療保険・年金の運営



2 福祉の充実

- (1) 社会福祉の充実
- (2) 高齢者福祉の充実
- (3) 障がい者福祉の充実



3 保健サービスの充実

- (1) 市民の健康支援
- (2) 健康な長寿社会



※政策体系表（基本事業を含む）は資料編（86 ページ）を参照

1 地域医療の充実

(1) 医療体制の整備

施策の現況と課題

- ・二次救急医療体制の堅持、産科医療の確保など、地域医療体制の確保に向けた取組を進めています。
- ・産科医療について、現在は里帰り出産の受入れが可能になっていますが、分娩数が減少傾向にあり、圏域内1診療所体制の維持に向けた継続的支援が必要です。
- ・救急医療体制については、医師及び医療スタッフの不足により、体制維持に対する負担が増しています。

前期基本計画の検証

- ・「ちちぶ医療協議会」を運営し、地域医療の課題解決に向けた諸事業を展開しています。市内産科医療機関については、県とともに支援を続け、体制を維持できています。
- ・二次救急輪番体制に一部変更があり、市立病院の負担が増しています。負担が増大している市立病院の看護師を確保するため、看護学生奨学金を創設しました。

前期基本計画における達成指標

○ 分娩を取り扱う産科医療機関数

(秩父地域内の分娩を取り扱う産科医療機関の数)

H26 実績 1 診療所 ⇒ R1 実績 1 診療所 ⇒ (R2 目標 1 診療所)

○ 二次救急輪番制参加病院数

(秩父地域内の二次救急輪番制参加病院の数)

H26 実績 3 病院 ⇒ R1 実績 3 病院 ⇒ (R2 目標 3 病院)

施策の方向性

- ・県とも連携し、圏域内唯一となっている産科医療機関を維持していきます。
- ・二次救急医療体制の維持に加え、初期救急の充実を図るため、三師会（秩父郡市医師会、秩父郡市歯科医師会、秩父郡市薬剤師会）と連携し、検討を進めます。
- ・引き続き、医師及び医療スタッフの確保に取り組みます。
- ・ウィズコロナ、アフターコロナ対策に継続的に取り組みます。

後期基本計画における達成指標

○ 分娩を取り扱う産科医療機関数

(秩父地域内の分娩を取り扱う産科医療機関の数)

令和元(2019)年度 実績 1 診療所 ⇒ 令和7(2025)年度 目標 1 診療所

○ 二次救急輪番制参加病院数

(秩父地域内の二次救急輪番制参加病院の数)

令和元(2019)年度 実績 3 病院 ⇒ 令和7(2025)年度 目標 3 病院

(2) 市立病院の充実

施策の現況と課題

- ・秩父地域の中核病院として、地域内外の医療機関等と連携し、より良い医療サービスの提供に努めています。建物・設備の老朽化が進んでいます。
- ・新医師臨床研修制度や医師の働き方改革、大学病院の医局の医師不足等の影響により、一部診療科で常勤医が不在となり、入院患者の受入困難等の課題が出ています。
- ・二次救急輪番体制の一部変更などにより、医師・医療スタッフの確保と負担軽減が課題となっています。

前期基本計画の検証

- ・常勤医師及び非常勤医師の確保に努めています。
- ・地域の産科医療確保のため、市内産科診療所に助産師を派遣しています。
- ・地域医療連携室が中心となり「圏域ケア連携会議」を定期開催するなど「ちちぶ版地域包括ケアシステム」を推進しています。
- ・他医療機関や介護施設との連携強化等もあり、紹介件数は目標を上回っています。

前期基本計画における達成指標

○ 紹介件数 (他の医療機関から市立病院への年間延べ紹介件数)
H26 実績 2,272 件 ⇒ <u>R1 実績 2,942 件</u> ⇒ (R2 目標 2,500 件)
○ 受入患者数 (外来・入院)
(市立病院の受入患者 (外来・入院) の年間延べ人数)
[外来] H26 実績 74,258 人 ⇒ <u>R1 実績 78,147 人</u> ⇒ (R2 目標 80,000 人)
[入院] H26 実績 32,440 人 ⇒ <u>R1 実績 36,139 人</u> ⇒ (R2 目標 43,000 人)

施策の方向性

- ・地域の中核病院として、引き続き、より良い医療サービスの提供に努めます。
- ・老朽化が進んでいる現状を踏まえ、建替えに向けた検討を進めます。
- ・常勤医・非常勤医の確保を今後も積極的に進め、既存診療科の診療内容の充実を図るとともに、救急医療体制を維持していきます。
- ・市内産科診療所へ助産師を継続派遣し、地域の産科医療体制を確保します。
- ・地域医療連携室を中心に、多職種連携による地域づくりを進めます。
- ・ウィズコロナ、アフターコロナ対策に継続的に取り組みます。

後期基本計画における達成指標

○ 紹介件数
(他の医療機関から市立病院への年間延べ紹介件数)
令和元(2019)年度 実績 2,942 件 ⇒ <u>令和7(2025)年度 目標 3,000 件</u>
○ 受入患者数 (外来・入院)
(市立病院の受入患者 (外来・入院) の年間延べ人数)
[外来] 令和元(2019)年度 実績 78,147 人 ⇒ <u>令和7(2025)年度 目標 80,000 人</u>
[入院] 令和元(2019)年度 実績 36,139 人 ⇒ <u>令和7(2025)年度 目標 38,500 人</u>

(3) 医療保険・年金の運営

施策の現況と課題

- ・国民健康保険及び後期高齢者医療の被保険者の医療受診や年金受給等の権利を確保するために、適正な資格管理、事務処理を進めることが求められています。
- ・一人当たり医療費が上昇傾向にあることから、被保険者の健康維持・増進と国保財政の健全運営が重要な課題となっています。

前期基本計画の検証

- ・特定健康診査等が健康管理にいかに関重要であるかの周知に努めたほか、受診しやすい環境整備を進めた結果、受診率は徐々に上昇しています。
- ・医療費適正化にも取り組み、レセプト点検は100%実施、医療費通知は年6回、ジェネリック医薬品推奨通知は年2回実施しています。
- ・税率等を改正することにより収入を確保し、一般会計からの繰入削減に努めています。

前期基本計画における達成指標

○ 特定健康診査受診率

(国保被保険者 40 歳以上 75 歳未満の対象者で特定健康診査を受診した率)

※人間ドッグ等受診者も含む

H26 実績 29.9% ⇒ R1 実績 40.4% ⇒ (R2 目標 50.4%)

施策の方向性

- ・特定健康診査事業等へ参加しやすい環境づくりを進め、さらなる参加者増加を図ります。
- ・健康増進事業、特定保健指導事業や糖尿病性腎症重症化予防事業を実施し、疾病の重症化や透析への移行を防止し、医療費の削減に努めます。
- ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施において、フレイル対策に取り組み、健康長寿の延伸や医療費の削減に努めます。
- ・県や埼玉県後期高齢者医療広域連合、秩父年金事務所との協力、連携を強化し、施策の実効力向上に努めます。

後期基本計画における達成指標

○ 特定健康診査受診率

(国保被保険者 40 歳以上 75 歳未満の対象者で特定健康診査を受診した率)

※人間ドッグ等受診者も含む

令和元(2019)年度 実績 40.4% ⇒ 令和7(2026)年度 目標 60.0%

2 福祉の充実

(1) 社会福祉の充実

施策の現況と課題

- ・生活困窮者の相談・支援では、保護が必要な方、就労が可能な方のそれぞれに適正な援助・相談・指導を行い、自立に向けた支援を行うことは、今後も重要な課題であり、包括的な支援体制を円滑に構築できるような仕組みを創設することが必要となっています。
- ・民生委員・児童委員は、地域社会の福祉向上に向け様々な取組を行っており、重要な役割を果たしています。

前期基本計画の検証

- ・町会役員、民生委員、社会福祉協議会等が協力し、「高齢者・障がい者等の見守り（ふれあいコール）事業」を実施しています。
- ・市が直営で「自立相談支援機関」となって生活困窮者向け相談支援を実施し、就労支援や学習支援などを展開しています。
- ・就労支援プログラムによる自立達成率は、ほぼ毎年、目標を上回る形で推移しています。

前期基本計画における達成指標

○ 就労支援プログラムによる自立達成率

(生活保護受給者で就労支援プログラムを実施した人数の打ち自立した人数の割合)

H26 実績 13.5% ⇒ R1 実績 20.0% ⇒ (R2 目標 15.0%)

施策の方向性

- ・ハローワークと連携し、生活保護受給者等の就労による経済的自立を促進します。
- ・要保護児童対策地域協議会を中心に、児童虐待等の対策強化に取り組みます。
- ・様々な関係団体と連携し「高齢者・障がい者等の見守り（ふれあいコール）事業」を推進し、必要なサービスを必要な方が利用できるよう取り組みます。
- ・市民が抱える複雑化、複合化した課題に対応する包括的相談支援体制を構築し、「誰も置き去りにしない」「誰も孤立させない」地域共生社会の実現を目指します。

後期基本計画における達成指標

○ 就労支援プログラムによる自立達成率

(生活保護受給者で就労支援プログラムを実施した人数の打ち自立した人数の割合)

令和元(2019)年度 実績 20.0% ⇒ 令和7(2025)年度 目標 22.0%

○ 新規就労者数

(生活保護受給者で就労支援プログラムを実施し新規就労に至った人数)

令和元(2019)年度 実績 24人 ⇒ 令和7(2025)年度 目標 25人

(2) 高齢者福祉の充実

施策の現況と課題

- ・高齢者が住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちづくりを進めるため「ちちぶ版地域包括ケアシステム」を推進しています。
- ・介護従事者の人材不足が顕著にみられはじめており、特に訪問介護員（ヘルパー）の人材不足は深刻な状況にあります。

前期基本計画の検証

- ・認知症への理解者を増やすため、認知症サポーター養成講座を継続的に実施しました。
- ・ちちぶ圏域ケア全体会議、ちちぶ圏域ケア連携会議の開催など、ちちぶ版地域包括ケアシステムを積極的に推進しました。
- ・高齢者が微増する中、要介護認定者が増加しているため、介護を要しない高齢者の割合が減少しています。

前期基本計画における達成指標

○ 認知症への理解者数

(認知症サポーター養成講座年間受講者数)

H26 年度 531 人 ⇒ R1 実績 423 人 ⇒ (R2 目標 1,000 人)

○ 援護や介護を要しない高齢者の割合

(要介護認定を受けていない高齢者の割合)

H26 年度 82.9% ⇒ R1 実績 81.4% ⇒ (R2 目標 82.0%)

施策の方向性

- ・健康寿命の増進など介護を要しない高齢者の割合を高めていくため、引き続きちちぶ版地域包括ケアシステムを推進していきます。
- ・高齢者が安心して介護保険サービスを利用できるよう、介護保険事業の安定的・継続的な運営と介護保険サービスの充実に努めていきます。
- ・介護従事者の人材確保に向けた新たな取組を進めます。

後期基本計画における達成指標

○ 認知症への理解者数

(認知症サポーター養成講座年間受講者数)

令和元(2019)年度 実績 423 人 ⇒ 令和7(2025)年度 目標 800 人

○ 援護や介護を要しない高齢者の割合

(要介護認定を受けていない高齢者の割合)

令和元(2019)年度 実績 81.4% ⇒ 令和7(2025)年度 目標 82.0%

(3) 障がい者福祉の充実

施策の現況と課題

- ・障がいの有無に関わらず、地域で共に生きる社会の実現を目指すため、障がい者の地域生活を支えるサービスの充実が求められています。
- ・秩父市社会福祉事業団が運営する多機能型福祉施設「にじいろテラス」が開所し、未就学児からの途切れない福祉サービス提供を目指しています。

前期基本計画の検証

- ・支援体制の充実として、秩父市社会福祉事業団が、国・県の補助金を活用して多機能型福祉施設「にじいろテラス」（児童発達支援、放課後等デイサービス、障がい者生活介護、高齢者デイサービスを併設）を開所し、星の子教室事業とふぁいん・ユ一事業を移管しました。
- ・あいサポート運動に定期的に取り組んでおり、参加者も順調に増加しています。

前期基本計画における達成指標（抜粋）

○ 計画相談実績率

（障がい者が障害福祉サービスを適切に利用するための利用計画を作成した割合）

H26 実績 84.6% ⇒ R1 実績 100% ⇒ (R2 目標 100%)

○ あいサポーター研修会参加者数

（あいサポート運動を理解するための研修会年間参加者数） ※1市4町の実績

H26 実績 - 人 ⇒ R1 実績 346人 ⇒ (R2 目標 300人)

施策の方向性

- ・引き続き、あいサポート運動に取り組むなど、第六期秩父市障がい者福祉計画（令和3（2021）年4月策定）に基づく諸事業を推進します。
- ・1市4町による定住自立圏事業として進めている「秩父地域自立支援協議会」の連携強化を図り、障がいのある人の地域生活を支援する機能（相談、体験の機会・場、緊急時の受入れ・対応、専門的支援、地域の体制づくり等）の集約を行う拠点（地域生活支援拠点）等の整備を推進します。

後期基本計画における達成指標

○ 地域生活支援拠点等の整備数

（地域生活支援拠点等の整備箇所数）

令和元(2019)年度 実績 0か所 ⇒ 令和7(2025)年度 目標 1か所

○ あいサポーター研修会参加者数

（あいサポート運動を理解するための研修会参加者数（累計）） ※1市4町の実績

令和元(2019)年度 実績 1,010人 ⇒ 令和7(2025)年度 目標 2,000人

3 保健サービスの充実

(1) 市民の健康支援

施策の現況と課題

- ・「健康寿命の延伸」に向け、健康づくりに関する啓発活動や各事業を展開し、市民の自発的な健康づくりを促進しています。
- ・地域に密着した活動を推進していくために、健康推進員や食生活改善推進員との協働により、市民の健康づくりへ繋げていくことが必要となっています。
- ・新型コロナウイルス対策や新しい生活様式の導入に対応した事業展開の構築が求められています。

前期基本計画の検証

- ・子育て支援では「秩父市版ネウボラ」事業を推進しているほか、定住自立圏事業のママサロンも定着し、好評を博しています。
- ・市民の自発的な健康づくりに取り組んだ結果、県の「健康長寿埼玉モデル普及促進事業」において優良市町村として5年連続表彰を受けました。

前期基本計画における達成指標（抜粋）

○ 健康教育・健康相談参加人数

(健康教育・健康相談への年間参加者数)

H26実績 4,789人 ⇒ R1実績 3,166人 ⇒ (R2目標 5,300人)

○ 乳幼児健康診査受診率

(乳幼児健康診査対象児のうち受診した児の割合)

H26実績 97.4% ⇒ R1実績 98.6% ⇒ (R2目標 98.0%)

施策の方向性

- ・事業の充実により、健康づくり計画「健康ちちぶ21」を推進し、市民の自発的な健康づくりを支援します。
- ・引き続き、健康推進員や食生活改善推進員と協働して、健康づくりに関する知識の普及啓発、食育推進事業等の広報活動を充実させていきます。
- ・ウィズコロナ、アフターコロナに対応した形への事業の見直しを進めます。

後期基本計画における達成指標

○ 健康教育・健康相談参加人数

(健康教育・健康相談への年間参加者数)

令和元(2019)年度実績 3,166人 ⇒ 令和7(2025)年度目標 5,300人

○ 乳幼児健康診査受診率

(乳幼児健康診査対象児のうち受診した児の割合)

令和元(2019)年度実績 98.6% ⇒ 令和7(2025)年度目標 100%

(2) 健康な長寿社会

施策の現況と課題

- ・健康な長寿社会は、高齢者が住み慣れた地域で生きがいをもって生活できる社会であり、健康寿命の延伸を推進していくためには、介護予防について普及啓発を行うことや、地域における介護予防活動を支援することが必要です。

前期基本計画の検証

- ・地域介護予防活動支援事業として、「秩父ポテくまくん健康体操」及び「秩父サロン活動事業」を積極的に推進しました。
- ・介護予防事業への参加者数は目標を大きく上回っています。

前期基本計画における達成指標（抜粋）

○ 高齢者を支援するボランティア数

(地域で高齢者を支援するボランティア活動するスタッフの総数)

H26 実績 50 人 ⇒ R1 実績 61 人 ⇒ (R2 目標 200 人)

○ 介護予防事業への参加者数

(地域における介護予防事業の年間延べ参加者数)

H26 実績 5,092 人 ⇒ R1 実績 13,862 人 ⇒ (R2 目標 5,200 人)

施策の方向性

- ・高齢者を支援するボランティアの育成や地域サロン活動の把握、活動費の助成等について、秩父市社会福祉協議会をはじめとする関係機関との連携を密にして取り組んでいきます。
- ・引き続き「秩父ポテくまくん健康体操」及び「秩父サロン活動事業」を推進し、健康寿命の延伸及び高齢者の生きがいづくり、仲間づくりのための環境づくりに取り組んでいきます。
- ・フレイル状態に陥ることを防止するための取組を進めます。

後期基本計画における達成指標

○ 高齢者を支援するボランティア数

(地域で高齢者を支援するボランティア活動するスタッフの総数)

令和元(2019)年度 実績 61 人 ⇒ 令和7(2025)年度 目標 200 人

○ 介護予防事業への参加者数

(地域における介護予防事業の年間延べ参加者数)

令和元(2019)年度 実績 13,862 人 ⇒ 令和7(2025)年度 目標 15,000 人